

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成14年 **2002.12**
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第74号

平成14年度 第2回 金沢大学フォーラムを開催



11月30日、金沢大学サテライト・プラザを会場に、金沢大学フォーラム－教育現場から「男女共同参画社会」の実現に向けて－を開催し、約100名の教育関係者、一般市民が参加した。



パネルディスカッション
＝金沢大学サテライト・プラザ（3階）

最初に、林勇二郎学長が「男女共同参画社会」の実現には、遠回りのようでも教育現場からの長期的展望に立った活動が必要であるとあいさつした。

続いて、畑安次副学長（教育担当）の司会により、5名のパネリストから、保育から大学までの各教育現場における現状と課題について問題提起があった。

その後のディスカッションでは、「男女混合名簿が小学校では100%なのに中学校ではなぜ少ないのか。」など活発な意見や質問が出され、パネリストのウィットに富んだ回答で、会場はなごやかな雰囲気包まれた。

最後に、和田敬四郎附属図書館長（男女共同参画推進委員会委員）が、自身の体験を交えながら「男女共同参画社会」の実現には、孫子の代までの息の長い取り組みが大切であるとまとめのあいさつを行った。



あいさつする林学長



自己開示とコミュニケーション

巻頭言

「行不由徑」－角間キャンパス標石めぐり－



教育学部長
杉本 幹博

大学中央バス停前。広い石段の左隅の人工池に「金沢大学」と刻まれた巨大な標石がある。市民にはなじみのある「赤戸室」の岩塊である。角間キャンパスの開設とともに金沢大学の新しい顔となった。戸室石は角間の南東方の戸室山、キゴ山をつくる安山岩で、白い斜長石の斑晶と流理構造が美しい。金沢城や由緒ある神社仏閣の石垣を優雅に綾どり、芯をくりぬき地中に埋めて「辰巳用水」の導水管とした。城下町金沢の石材文化を支えた郷土の石であり、大量の戸室石を運んだなごりが今も小立野台の「石引町」に残る。

表題の「行不由徑」を小さく刻んだ自然石の碑は総合教育棟玄関の図書館側の路傍にある。金沢近郊には見られない灰紫色凝灰岩の岩塊である。私が赴任した当時の第3代・中川善之助学長の退官(1973年9月)を記念したもので、旧城内キャンパスから移設された。出典は論語。「行くに徑(こみ

ち)に由(よ)らず」と読む。「人間、常に大道を行くべきであり、間道など探すような根性の人間にならないことを心掛けたい」、「自己を確立して常に堂々と正道を行け」という意を伝える。

アカンサスインターフェイス(歩道橋)の理学部側の芝生に建つ方形の標石にも論語の一句「本立而道生」が刻まれており、「本(もと)立ちて道生ず」と読む。「根本が確立されると、行くべき道がおのずとできてくる」の意という。総合移転第Ⅰ期計画事業の完成を記念した第8代・岡田晃学長に因むもので(1996年7月)、金沢の石材文化を象徴するレンガ色の戸室石と医王山をつくる緑色凝灰岩に似せた人造岩石である。また事務局玄関前の芝生には第2代・石橋雅義学長により「金沢大学」と刻まれた黒色の玄武岩溶岩の標石(1967年9月)がひっそりと置かれている。にぎわいを極めた金沢城石川門前からここへ移設された。

現在、角間では第Ⅱ期工事が急ピッチで進められており、本学は新しく生まれ変わりつつある。やがて次世代へ繋がる巨大なキャンパスが誕生する。今、未来へむけて躍進するこの時期に、かつてそれぞれの時代を綾どった幾多の先人たちが「金沢大学の発展」を期して刻み残した想いの片鱗を路傍の標石と重ね合わせて振り返ってみたい。

目次

平成14年度 第2回金沢大学フォーラムを開催……………	1	第10回日本物理療法学会2002年金沢大会……………	8
巻頭言「行不由徑」……………		教育者表彰……………	9
－角間キャンパス標石めぐり……………	2	金沢市文化賞……………	9
附属図書館シンポジウム……………	3	本学関係者2名に“北國文化賞”……………	9
トンレサップ湖調査の一般公開国際講演会を開催……………	3	感謝状贈呈式……………	9
シンポジウム「確認」“確認を確認しよう!”……………	3	第3回ローゼンストック国際ピアノコンクールに入選……………	9
分子標的薬剤開発センター 公開シンポジウム……………	4	本学へのお客さま……………	10
バイオサイエンス 若手シンポジウム……………	4	インド教育行政官一行が教育学部を訪問……………	
日本発達心理学会 北陸地区シンポジウム……………	4	－国際協力事業団(JICA)青年招へい事業－……………	10
附属小学校 第53回教育研究発表会……………	5	外国人留学生 実地見学旅行を実施……………	10
附属中学校 第51回教育研究発表会……………	5	訃報……………	11
学外進学説明会を大阪、名古屋で初めて独自に開催……………	5	市民公開セミナー「がん医療の最前線」……………	11
工学部・理学部 大学開放……………		ミニ講演「市民のためのやさしい哲学入門」……………	11
工学部「てくてくテクノロジー」……………	6	公開講座「ヒトと人間の生物学」……………	11
理学部「ふれてサイエンス」……………	6	平成14年度金沢大学職員スポーツ大会成績……………	11
第39回金大祭「はじめの一步。」……………	7	角間の里山自然学校……………	12
附属高等学校 第55回開校記念祭……………	7	工学部及び事務局で防災訓練を実施……………	12
附属中学校 第54回文化祭……………	7	平成14年度金沢大学永年勤続者表彰式……………	12
第1回先端研究フォーラム……………	8	編集後記……………	12
身近な薬草勉強会……………	8		

ニュースの杜

附属図書館シンポジウム

11月11日、附属図書館は石川県大学図書館協議会と共催で、「これからの大学図書館のあり方 ―図書館の位置づけ、図書館経営、生涯学習社会―」をテーマに、シンポジウムを開催した。

校内教職員・学生、近隣の図書館関係者及び一般市民など約100名が参加した。



パネルディスカッション



あいさつする
和田附属図書館長
＝大学会館

講演する石澤上智大学教授
＝金沢市泉野図書館



研究成果の概要を発表する塚脇助教授

トンレサップ湖調査の 一般公開国際講演会を開催

11月2日、カンボジアのトンレサップ湖における過去2万年間の環境変遷史の研究成果の発表会が、「トンレサップ湖―アンコール文明をはぐくんだ湖、そしてカンボジアの命―」と題して開催された。林学長のあいさつ及び石澤良昭上智大学教授の招待講演に続いて、研究代表者の塚脇真二自然計測応用研究センター助教授から研究成果の概要が発表された。

シンポジウム「確認」 “確認を確認しよう！”

医学部附属病院は11月7日、医療事故防止に関する研修会の一環として、「確認」“確認を確認しよう！”をテーマとしたシンポジウムを開催し、325名の教職員が参加した。



事例発表するパネリスト
＝医学部附属病院臨床講義室



シンポジウム

ニュースの杜



慶應義塾大学
梅澤教授

大阪大学
長田教授



質問する出席者
＝医学部記念館

分子標的薬剤開発センター 公開シンポジウム

11月1日、がん研究所の主催で「分子標的薬剤開発センター公開シンポジウム」が開催され、約130名が出席した。

今回のシンポジウムでは、梅澤一夫慶應義塾大学教授から「抗糖尿病、抗癌剤の新しい分子標的と阻害剤」について、長田重一大阪大学教授から「アポトーシスと死細胞の貪食^{どん}」について、最先端の講演があった。

バイオサイエンス 若手シンポジウム

11月21日、自然計測応用研究センター、工学部、理学部及び共同研究センターの共催で、学部間の垣根を越えたバイオサイエンス研究の交流と企業への情報提供を目指したシンポジウムが開催され、60名を超える聴講者があった。



基調講演する岩坂正和東京大学大学院医学系研究科講師
＝工学部秀峯会館中会議室



発言するパネリスト
＝金沢大学サテライト・プラザ（3階）

日本発達心理学会 北陸地区シンポジウム

11月2日、文学部及び教育学部の心理学系研究室が主催して「現代の若者にとっての「自分」と「他人」：自己と対人関係の発達心理学」をテーマにした北陸地区のシンポジウムを開催し、カウンセラー、教員、一般市民、学生等の約60名が参加した。

研究会・説明会

附属小学校 第53回教育研究発表会

11月14日、15日の2日間、「創発のある学び舎～「個」の確立をめざした学びの場の構想～」を主題とする発表会がひらかれ、全国から約730名が参加した。



社会科の研究協議
=11月15日、附属小学校



講演する安藤輝次福井大学教育地域科学部教授
=11月22日、附属中学校

附属中学校 第51回教育研究発表会

11月22日、「21世紀を担う生徒の育成を目指して（1年次）～評価を見据えた学習指導の探求～」を研究主題とする発表会が全国から約350名の参加のもと行われた。

学外進学説明会を大阪、名古屋で初めて独自に開催

本学は、大阪（10月26日）及び名古屋（11月2日）で、高校2年・3年生及び進路指導担当教諭等を対象とした学外進学説明会を初めて独自に開催した。

各会場には、畑副学長及び各学部の入試・広報担当の教官が出席し、学部紹介とミニ講義を行った。

また、進学相談コーナーの各学部ブースには、高校生や進路指導教諭が多数相談に訪れた。



「心とはどんな自然現象か？」について
ミニ講義を行う柴田正良文学部教授
=11月2日、名古屋会場（通信会館）



受験生の相談を受ける各学部教官
=11月2日、名古屋会場（通信会館）

オープンキャンパス

工学部・理学部 大学開放

工学部「てくてくテクノロジー」

11月2日、工学部は、講演、各種デモンストレーション及び展示を行い、また、高校生に対する進学相談コーナー等を設ける等のオープンキャンパスを行った。

当日は、風雨の強い中にもかかわらず、小中学生の親子連れが多く訪れ、約600名の参加者があった。

どこまで膨らむか
試してみよう



モーガン電気自動車の走行実演



液状化ってなに？



ロボットとジャンケンしよう

理学部「ふれてサイエンス」

11月3日、理学部は、小・中・高校生、地域住民を対象に、第10回「ふれてサイエンス」(見学会)を開催した。

当日は、悪天候にもかかわらず、955名の参加者がおり、学生運営委員会が、教職員及び学生280名の協力を得て運営に当たり、27テーマについて展示し、説明した。



バーチャルリアリティ
システムの紹介・体験



酸素分子と結合する
金属錯体の演示実験



(奥) シャボン玉に入ろう
(手前) ベンハムのコマの展示・制作



細菌を利用して
納豆やヨーグルトを作る

第39回 金大祭 「はじめの一步。」

11月2, 3, 4日に金大祭が行われた。

テーマは、「はじめの一步。」

あいにくの雨あらしの中ではあったが、延約2000人の学生・市民が、講演会に、サークル展示に、模擬店に、パフォーマンスに集まり、角間キャンパスは賑わいをみせた。



パレード
=10月27日



メイン講演会「どこへ行くニッポンーキッチンから有事法制まで」
講師 小林カツ代さん（料理研究家）
=11月3日、文学部・法学部・経済学部棟A101講義室



大道芸
=11月2日

附属高等学校 第55回開校記念祭

今年度で55回を迎える開校記念祭が10月26日、27日開催された。今年の記念祭のテーマは「百花繚乱^{りょうらん}」、伝統と時代を切り拓く知性の上に個性が光る附属高等学校にふさわしい。

さまざまな模擬店やパフォーマンスとともに、最大の呼び物は伝統の歌舞伎上演であった。

生徒が演じる歌舞伎
「仮名手本忠臣蔵七段目（一力茶屋）」
=10月26日、附属高校体育館



附属中学校 第54回文化祭

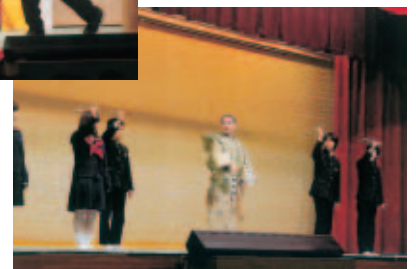
10月31日、11月1日、附属中学校の第54回文化祭が行われた。

生徒によるシルエット劇やクラス劇の上演、また、伝統芸能鑑賞会も企画され、狂言「棒しばり」の軽妙な演技を楽しんだ。ワークショップでは、狂言独特の発声にチャレンジしたり小舞の練習をするなど、狂言の一端を体験した。



クラス劇を演じる生徒

狂言師から指導を受ける生徒
=10月31日、
附属中学校体育館



フォーラム等

第1回先端研究フォーラム



先端研究の現況について発表する研究者
＝総合教育棟 C4講義室

11月21日、研究・環境委員会の主催で本学研究者が展開している先端研究を発表することにより、研究者間における情報交換を行うとともに、研究の活性化を図ることを目的に先端研究フォーラムを開催した。

フォーラムでは5名の研究者から、「設計・センサの先進技術への適用」、「高速原子間力顕微鏡－液中生体分子ダイナミクスのイメージング－」等について発表が行われた。

身近な薬草勉強会

11月9日、薬学部附属薬用植物園が主催して「身近な薬草勉強会」がひらかれた。児童及び保護者が香辛料の薬効の講義を受け、植物園スタッフやインドからの留学生とともに、薬用植物園で香辛料を採集し、カレーづくりに取り組んだ。



インドからの留学生の指導で
カレーづくり挑戦
＝薬学講堂



御影園長にカレーに入れる香辛料についての説明を受ける参加者
＝薬学講堂

第10回日本物理療法学会2002年金沢大会



パネルディスカッション
＝11月3日、石川県地場産業振興センター

11月2日～3日の両日、医学部保健学科理学療法専攻を当番大学として日本物理療法学会の主催による、特別講演会「関節拘縮の病態」及び「物理療法のEBM」が開催され、約150名が出席した。その後、電気刺激法、超音波療法、温熱療法、他動的伸張法、CPMの観点から「拘縮に対する物理療法」と題してパネルディスカッションが行われた。



治療機器のプレゼンテーション風景
＝11月2日、石川県地場産業振興センター

トピックス

教育者表彰

11月27日、学校教育の振興に顕著な功績のあった人に贈られる本年度の文部科学大臣表彰（教育者表彰）の被表彰者として、本学から教育学部附属高等学校の石田三郎教頭が選ばれ、国立劇場で表彰式が行われた。



教育学部附属高等学校
教頭 石田 三郎

金沢市文化賞

11月3日、金沢市文化ホールで「第56回金沢市文化賞」の贈呈式が行われ、磨伊正義がん研究所教授が受賞した。がん転移のメカニズム解明や治療法を開発、診断・治療体系の確立に貢献したことが評価された。



がん研究所教授
磨伊 正義

本学関係者2名に“北國文化賞”

11月3日、北國新聞会館で「第56回北國文化賞」の贈呈式が行われ、三輪晃一大学院医学系研究科教授及び辻彰薬学部教授の2名の本学関係者が受賞した。

三輪教授は、胃がんの標準的な治療指針を作成し、手術の地域格差解消に貢献するなど、胃がん治療の進展に貢献したことが高く評価された。



大学院医学系研究科教授
三輪 晃一

辻教授は、薬剤の体内での吸収、排出に関する機構を解明し、次世代の医薬品開発につながる先駆的成果を挙げたことが高く評価された。



薬学部教授
辻 彰

感謝状贈呈式

11月21日、大学院医学系研究科の教育研究助成のため、1億円を寄附された大崎幸代氏に対して、林学長から感謝状を贈呈した。



大崎氏（右から3人目）と大学関係者
＝事務局特別会議室

第3回ローゼンストック国際
ピアノコンクールに入選

11月23、24日、東京で開かれた「第3回ローゼンストック国際ピアノコンクール」で玉瀨みをさん（教育学研究科）が入選した。このコンクールは有能な演奏家を発掘、育成することを目的に、東京国際芸術協会などの後援により開催されたもの。



大学院教育学研究科
音楽教育専攻1年
玉瀨 みをさん

学長室等

本学へのお客さま



ベトナムタンマウ障害児学校訪問団と本学関係者
=11月7日, 学長室

インド教育行政官一行が教育学部を訪問

—国際協力事業団（JICA）青年招へい事業—

講義に聴き入る一行
=教育学部会議室



11月13日, 国際協力事業団（JICA）青年招へい事業により来日中のインド教育行政官一行（16名）が, 教育学部を訪問した。

一行は, 田中健太郎国際交流課長から「日本の教育システ

ム」について, 田邊俊治教育学部教授から「21世紀初頭における日本の教育改革の方向」についての講義を受けた。



資料館を見学

外国人留学生 実地見学旅行を実施

11月6日, 7日に, 外国人留学生実地見学旅行を実施した。見学先は, 岐阜県（白川郷, 高山市, 古川町）と愛知県（犬山城, 明治村）で, 留学生たちは, それぞれの見学地で日本の伝統文化に触れ, 思い思いに記念撮影を行った。



=11月6日, 岐阜県高山市内

訃報



11月3日、小林健一医学部附属病院院長が逝去されました。享年63歳。

11月30日には、医学部十全講堂で追悼式が行われました。

ここに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

市民公開セミナー 「がん医療の最前線」

11月16日、がん研究所主催の市民公開セミナー「がん医療の最前線」が開催され、同研究所の3名の研究者が「遺伝子と環境」「がん休眠療法」「がんはどこまで見つかるようになったか」と題して講演し、約60名の参加者はがんの発症や治療法、検診の大切さなどについて理解を深めた。



講演する村上清史教授

参加者からの質問に答える
村上教授、澤武紀雄教授、高橋 豊助教授、山本健一所長
＝金沢大学サテライト・プラザ（3階）

ミニ講演 「市民のためのやさしい哲学入門」



岡崎文明教育学部教授
＝11月2日、金沢大学サテライト・プラザ

公開講座 「ヒトと人間の生物学」



「病気の生態史観－マラリアからエイズまで－」について講義する矢島孝昭理学部教授
＝11月30日、金沢大学サテライト・プラザ

平成14年度 金沢大学職員スポーツ大会成績



硬式テニスの試合風景
＝10月5日、角間キャンパスの北部テニスコート

区分	優勝	準優勝	第三位
ソフトボール	附属小学校 マリン	工学部	事務局A 附属病院
硬式テニス	工学部	理学部A	事務局A 事務局B
ボウリング (団体)	事務局10 永田 秀和 横井 伸一 貝吹 四郎	事務局29 渡邊 和男 南 早蔵 吉村 佳	事務局20 小川 勇 西森 哲雄 高畠 秋雄
ボウリング (個人男子)	西村 孝司 (契約室)	渡邊 和男 (留学生課)	高山 浩接 (契約室)
ボウリング (個人女子)	吉田 末園 (人事課)	谷 美智子 (契約室)	越山 春恵 (薬学部)

角間の里山自然学校

11月23日、春から活動を続けてきた北谷で水田に溜まった泥上げや里山道づくりを行った。秋風に落ち葉が降る中、お天気に恵まれて爽やかな汗を流した。里山も冬の装いにも変わりつつある。



泥上げをする参加者
=11月23日

工学部及び事務局で 防災訓練を実施

工学部（10月29日）及び事務局（11月20日）では、工学部教職員、学生約230名、事務局職員37名が参加して、それぞれ防災訓練等を実施した。

救命処置の実技体験する参加者
=10月29日、工学部秀峯会館



消火訓練する事務局職員
=11月20日、事務局横

平成14年度金沢大学永年勤続者表彰式

11月22日、「平成14年度永年勤続者表彰式」が挙行された。林学長から金沢大学永年勤続者50名に表彰状が授与され、文部科学省永年勤続者3名に表彰状が伝達された。これに対し、岡澤孝雄留学生センター教授が代表して謝辞を述べた。



永年勤続者表彰を受けた教職員
=11月22日、大学会館

編 集 後 記

今月の第74号は、1頁の「平成14年度第2回金沢大学フォーラム」をはじめ、シンポジウム、講演会、研究発表会などの記事が多くなりました。大学に求められる『積極的な情報の提供』、『地域社会への貢献』の一環ではとされます。

2002年も残すところわずかとなりました。本紙では、本学の様々な出来事や行事などを提供してきました。これも皆様方からの情報提供の賜物と感謝しております。これからも内容・方法に工夫を凝らすなど、より良い広報・情報発信を目指し努力してまいりたいと思います。来年も引き続きご支援とご協力をお願いします。

（総務部企画広報室長 太田 義興）

平成14年12月20日発行
（原則として毎月1回第3週に発行）

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」〈愛称“KUPIS”（キューピーズ）〉
（アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>）でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール（E-mail）=general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。